

小社出版物につきまして、下記の訂正がございます。ここに訂正し、ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

『ラクラク突破の1級建築士スピード学習帳 2026』 正誤表

2026年2月9日

科目	頁	該当箇所	誤(訂正前)	正(訂正後)
法規	233	実践問題 問6	解答解説 鉄筋コンクリート造で高さ20m超であり法20条二号に該当する。令81条2項二号より、令81条2項一号イの保有水平耐力計算とする場合であっても、 令36条2項一号より 令82条の2の層間変形角は適用	鉄筋コンクリート造で高さ20m超であり法20条 1項 二号に該当する。令81条2項二号より、令81条2項一号イの保有水平耐力計算とする場合であっても、令82条の2の層間変形角は適用
構造	368	最頻出問題 問1	選択肢・ 解答解説	次頁参照(選択肢1～4、および解説の計算式と図に誤りがありました)

株式会社エクスナレッジ

001 断面の性質、応力度

QUESTION & ANSWER

1 最頻出問題 | 四肢折一

QUESTION

1 □□ 図1のような柱脚固定の片持ち柱の柱頭に図心Gから100mm離れた点に鉛直荷重N=60kNが作用している。底部における垂直応力度の分布の組み合わせとして正しいのは、次のうちどれか

	左端応力度 σ (N/mm ²)	右端応力度 σ (N/mm ²)
1	-4	6
2	-3	5
3	-2	4
4	-1	3

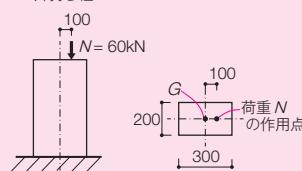
図1 柱脚固定
片持ち柱

図2 柱の断面

ANSWER

1 答えは 4

偏心荷重を受ける部材の縁応力度の問題である。鉛直荷重Nによる圧縮応力度(=N/A)と偏荷重によって発生する縁応力度(= $\frac{Ne}{Z}$)の足し合わせにより求まる(367頁参照)。

$$\begin{aligned}\sigma_c &= \frac{N}{A} = \frac{60 \text{ kN}}{60,000 \text{ mm}^2} = 1 \text{ N/mm}^2 \\ \sigma_e &= \frac{Ne}{Z} = \frac{60 \times 100 \text{ kN}}{200 \times 300^2 \text{ mm}^3} = 2 \text{ N/mm}^2 \\ \frac{N}{A} - \frac{Ne}{Z} &= 1 - 2 = -1 \text{ N/mm}^2 \\ \frac{N}{A} + \frac{Ne}{Z} &= 1 + 2 = 3 \text{ N/mm}^2\end{aligned}$$

柱脚断面の垂直応力度分布

$$\begin{aligned}\frac{N}{A} - \frac{Ne}{Z} &\sim \text{左端} \sim \frac{N}{A} + \frac{Ne}{Z} \\ &= 1 - 2 &= 1 + 2 \\ &= -1 \text{ N/mm}^2 &= 3 \text{ N/mm}^2\end{aligned}$$